

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

ネズミ駆除と毛皮目的で導入されました。県本土では在来種として生息しています。しかし、トカラ列島（口之島、中之島、臥蛇島、平島、諏訪之瀬島、悪石島）、喜界島、沖永良部島、与論島に持ち込まれ、これらの島では外来種になっています。鹿児島県では緊急防除種に指定されています。在来生物を捕食しており、平島、悪石島、与論島では、両生は虫類の絶滅や農業被害（ニワトリなど）の影響が出ています。奄美大島、徳之島、トカラ列島の宝島、小宝島などにはまだ侵入・定着が確認されていません。もし、これらの島で見かけたら、至急、県自然保護課が市町村にお知らせ下さい。

1 基本情報

分類	
目・科名	ネコ目イタチ科
種名(亜種名)	ニホンイタチ(コイタチ)
学名	<i>Mustela itatsi</i>
環境省カテゴリー	緊急対策外来種
県カテゴリー	緊急防除種
由来	県内由来外来種
侵略的外来種番付表	張出横綱(島嶼)
番付表掲載の理由	県内由来外来種
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100
侵入・定着の状況	
自然分布域	本州、四国、九州といくつかの周辺島嶼(佐渡島、伊豆大島、隠岐、小豆島、奄岐、屋久島、種子島など)
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	ネズミ駆除と毛皮目的で導入された
県内の侵入分布	トカラ列島(口之島、中之島、臥蛇島、平島、諏訪之瀬島、悪石島)、喜界島、沖永良部島、与論島
全国の侵入分布	北海道と周辺島嶼(利尻島、礼文島)、伊豆諸島(利島、三宅島、八丈島、青ヶ島)、五島列島、トカラ列島(口之島、中之島、臥蛇島、平島、諏訪之瀬島、悪石島)、奄美諸島(喜界島、沖永良部島、与論島)、沖縄諸島(伊江島、座間味島)、大東諸島(北大東島、南大東島)、先島諸島(宮古島、伊良部島、下地島、波照間島)
生態学的特性	
生態	食性は肉食で、は虫類(トカゲ類、ヘビ類)、カエル、ネズミ類、鳥類、昆虫類、甲殻類、魚類を捕食する。土穴などを巣とする。オスはいくつかのメスの行動圏に重なるような行動圏を持つ。
形態	頭胴長はオス27~37cm、メス16~25cm、尾長はオス12~16cm、メス7~9cm。全身山吹色だが、額中央部から鼻にかけて黒い。オスはメスより2まわり以上大きい。
繁殖形態	交尾期は4~5月で、九州では年2回(2回目は秋頃といわれているが、詳しい時期については不明)。産子数は1~8頭、平均3~5頭。
生息環境	山間部、農耕地、民家周辺など。導入された島嶼では民家周辺などにも多い。
特記事項	県本土では在来種として生息しています。



2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①ネズミ類、鳥類、は虫類(トカゲ類、ヘビ類)、両生類(カエル)、昆虫類、甲殻類、魚類の捕食。平島、悪石島、与論島では、は虫類、両生類を絶滅させている。 ②ニワトリなどへの農業被害。
県内で特に予想される被害	トカラ列島、喜界島、沖永良部島、与論島におけるネズミ類、鳥類、は虫類(トカゲ類、ヘビ類)、両生類(カエル)、昆虫類、甲殻類、魚類の捕食。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②ネズミ駆除の目的での導入。
3 対策	
ニホンイタチを見つけたら	奄美大島、徳之島、トカラ列島の宝島、小宝島などにはまだ侵入・定着が確認されていません。もし、これらの島で見かけたら、至急、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。
見分け方	ニホンイタチは、全身山吹色で、額中央部から鼻にかけて黒い。類似種のテンは手足が黒く、耳はやや大きく、目立っている。
見かけやすい場所・時間	昼間も夜間も見られ、山間部、農耕地、民家周辺などに生息している。
防除方法	ファイリマングース防除で使われているものと同様のわなが有効である。
防除の取組事例	北海道では、オスのみが狩猟鳥獣になっている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10320.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 北海道 北海道ブルーリスト ニホンイタチ http://bluelist.ies.hro.or.jp/db/detail.php?k=01&cd=24